

## 第26回日ロ極東学術シンポジウムのご案内

紅葉の季節となりました。皆様お元気でご活躍のことと存じます。

さて、1984年以來、ロシア科学アカデミー極東支部を中心とする研究者や実務家との間で続けている日ロ極東学術シンポジウムは、今年で26回目を迎えます。

近年、回復基調にあるロシア経済を反映して、日ロ間の経済関係は再び活性化しつつあります。その一方、北東アジアの諸地域での政治情勢は、複雑さをましています。

このシンポジウムでは、このように変化しつつある地域に身をおきつつ、日ロ関係を含めて、東北アジアの政治・経済・社会に関わる諸問題をグローバルな視点から検討したいと考えています。

今回のシンポジウムには、ウラジオストクに本部をおくロシア科学アカデミー極東支部の歴史・考古学・民族学研究所、太平洋地理学研究所、ハバロフスクの経済研究所の主要メンバーを迎えます。それに加えて、新たに、ロシア科学アカデミー・ウラル支部から、タタルキン経済研究所長を始めとする主要メンバーにも参加いただくことになりました。

また、本シンポジウムは、前回と同じく、日ロ極東学術交流会と北東アジア・アカデミックフォーラムとの共催となります。

これまでのシンポジウムと同様に、率直な意見交換を行いたいと考えています。ご多忙とは存じますが、ぜひご参加いただきますようご案内申し上げます。

2010年11月

日ロ極東学術交流会

共催 京都大学経済研究所

共催 北東アジア・アカデミックフォーラム

\*\*\*\*\*

シンポジウム参加費（資料代を含む）：3000円 懇親会費：5000円

[連絡先] 日ロ極東学術交流会事務局

632-8510 天理市杣之内 1050 天理大学国際文化学部 五十嵐徳子研究室気付

電話：0743-63-7458

e-mail:n-igaras@sta.tenri-u.ac.jp または [fujimoto@keiho-u.ac.jp](mailto:fujimoto@keiho-u.ac.jp)

<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~kumo/nichiroindex.htm>

\*\*\*\*\*

出席のご返事はメールまたは葉書で、懇親会出席の有無もご記入の上、11月29日まで  
にお願いします。

## 第26回日ロ極東学術シンポジウム・プログラム

日時：2010年12月4日（土）～5日（日）

場所：京都大学「百周年時計記念館」（市バス京大正門前下車）

時間：10:00～17:00

主催：日ロ極東学術交流会

共催：京都大学経済研究所・北東アジア・アカデミックフォーラム

### 報 告

#### 12月4日（土）

1. ミナーキル、パーヴェル・アレクサンドロヴィチ  
（ロシア科学アカデミー極東支部・経済研究所長、アカデミー会員）  
「北東アジア諸国における経済協力のメカニズム」
2. レンジン、オレグ・マールコヴィチ  
（ロシア科学アカデミー極東支部・経済研究所副所長）  
「ロシアとアジア太平洋地域における金融部門—金融危機後の傾向」
3. ヴラシュク、リュドミーラ・イヴァーノヴナ  
（ロシア科学アカデミー極東支部・経済研究所・部長）  
「2000—2008年における極東地域の経済成長の諸要因」
4. ポターニン、ミハイル・ミハイロヴィチ  
（ロシア科学アカデミー極東支部・経済研究所・若手研究員）  
「極東における大規模エネルギー資源プロジェクト：国際協力のポテンシャルと地域発展の諸問題」
5. ロマーノヴァ、オリガ・アレクサンドロヴナ  
（ロシア科学アカデミー・ウラル支部・経済研究所主任研究員、教授）  
「ウラル基幹部門発展の革新的要素」

討論予定者：溝端佐登史氏（京都大学）、雲和広氏（一橋大学）、堀江典生氏（富山大学）  
藤田整氏（大阪経済法科大学）、大津定美氏（大阪産業大学）

### 懇 親 会

18:00～

カフェレストラン「カンフォーラ」（京都大学本部構内）

12月5日(日)

1. タタルキン、アレクサンドル・イヴァーノヴィチ  
(ロシア科学アカデミー・ウラル支部・経済研究所長、アカデミー会員)  
「社会の知的資源と再生産過程におけるその役割」
2. ナイジョーノフ、アレクセイ・セルゲーエヴィチ  
(ロシア科学アカデミー・ウラル支部・経済研究所、エコノミスト)  
「ウラル連邦管区と極東連邦管区における税制：外国企業家にとっての魅力」
3. ガリヤーモヴァ、リュドミーラ・イヴァーノヴナ  
(ロシア科学アカデミー極東支部・歴史・考古学・民族学研究所、部長)  
「ロシア極東地域における日本漁業の発展の特徴（19世紀末～20世紀初頭）」
4. アフォーニン、ボリス・ミハイロヴィチ  
(ロシア科学アカデミー極東支部・歴史・考古学・民族学研究所、上級研究員)  
「ロ日関係における文化と人間関係の役割」
5. コジェヴニコフ、ヴラジーミル・ヴァシリエヴィチ  
(ロシア科学アカデミー極東支部・歴史・考古学・民族学研究所、部長)  
「21世紀ロシアの対日政策と日本の対ロ政策：比較研究」
6. ラーリナ、リーリヤ・リヴォーヴナ  
(ロシア科学アカデミー極東支部・歴史・考古学・民族学研究所、上級研究員)  
「ロシア極東は隣接する世界を幾度も観察する：誰がわれわれに親しみを持ち、誰をわれわれが恐れ、誰と協力することになるのか（2010年のアンケート調査より）」

討論予定者：宮本勝浩氏（関西大学）、藤本和貴夫氏（大阪経済法科大学）、阪本秀昭氏（天理大学）、伊賀上菜穂氏（中央大学）、木村崇氏（京都大学）五十嵐徳子氏（天理大学）

すべての報告・討論は日本語とロシア語に通訳されます。

報告の順序が入れ替わる場合があります。